

課題
1

「障害当事者も多数参加によるワークショップの効果的な進め方について」
(障害当事者への配慮や工程管理など)

原因の追究

さまざまな障がいやLGBT、高齢者、日本語が不自由な外国の方など多様な特性に対しての理解が足りず、物事の共有に時間がかかり工程をうまく作れていない。

課題解決方法の提案

体制

多様な特性とUDの知見のある講師陣による、
具体的かつ体験的なプログラムの提供

具体的体制の提案

工程管理

理解⇒体験⇒深耕と気づきレベルの進化を
確認しながら、情報保障のスキルもアップ

工程管理方法の提案

体制

講師

ファシリテーター

運営事務局

人材

多様な特性の講師陣

多様な障がい当事者、外国人、LGBT
等

資格所持者

イベント業務管理士1級
ユニバーサルイベント検定合格者

有識者

UDに20年以上携わってきた方

UD理解者

ワークショップの進め方

理解

対話・体験形式で進め、
UDの知見と理解レベルを統一する。

体験

障がい当事者と一緒に体験することでUDの
必要性に気づき、行動変容を促す。

深耕

理解、体験からの気づきを活かし、UDのま
ちづくりに必要な改善や施策を共に考え具
体的な提案と行動に結びつける。

多様な情報保障を
助けるツールの使用

(例) 遠隔手話サービスとUDトーク
を使いながらのUD会議風景



UDトーク
聴覚や外国人への
多言語情報保障に対応
+Voice
遠隔通訳(手話)
サービス
筆談サービスに対応

Uni-Voice
視覚バリアフリー
文字情報バリアフリー
言語バリアフリーに対応

課題
2

「商店街、金融機関、民間企業を対象にしたユニバーサルデザイン意識啓発プログラムについて」
(具体的な取り組み内容やアイデアなど)

原因の追究

企業としてだけでなく個人としても、それぞれのサービス現場で多様な特性のある人の困難さに対する理解がないため、現状の改善点やユニバーサルデザイン・サービスの必要性と方法が思いつかず、実施できていない。

課題解決方法の提案

理解

体験

深耕

多様な特性のある講師たちと密なコミュニケーションをとりながらともに行うワークショップから
「理解」⇒「体験」⇒「深耕」と知識と気づきを深めていき、
参加者自らがUDな商品・サービスの提供やまちづくりへの提案・実施ができるよう促す

具体的解決方法

体制・役割

(ws第1回)	(ws第2回)	(ws第3回)	(ws第4回)	(ws第5回)	(ws第6回)	(ws第7回)	(ws第8回)
UDとは？ 多様なサービスの現場での必要性とは？	ダイバーシティコミュニケーションについて (理解)	ダイバーシティコミュニケーションについて (サポート)	ユニバーサルスポーツとは？	ユニバーサルスポーツの体験	ユニバーサルキッチンの体験	気づきの振り返り	UD意識啓発プログラムの提案
UDの基本と必要性の理解	コミュニケーションの基本	多様な人の個々の理解	ユニバーサルスポーツの理解	ユニバーサルスポーツの理解	障がい特性に合わせた料理法の修得	気づきから課題解決へ	自ら提案実施する課題解決宣言
社会の変化への対応	サポート方法の体験	個人の尊重と多様性	違いを受け入れ活用する	ペタンクの体験	蕎麦打ちの体験	ダイバーシティ、UDの課題解決	自分たちで作るUDなまちづくり
		ダイバーシティの深耕	違いを活かした楽しみ方の深耕	合理的配慮の体験	合理的配慮の体験	合意形成の体験	継続的活動の場づくり
多様性が進化する社会の現実を理解し、これからのまちや仕事に必要なUDの知識を深め、自ら学び変容していく自覚を促す。	多様性の理解のきっかけとして、個々の障がい特性へのサポート方法を当事者と共に体験し、多様な人たちとの壁を取り除く。	多様な特性のある当事者から、その生活や仕事の話や聴き、障がいとは特別なことではないことを実感して、その能力を知る。	そこにいる皆が一緒に楽しめるスポーツ＝ユニバーサルスポーツの基本を学び、特性を受け入れたスポーツを創造して実践する。	ペタンクをユニバーサルスポーツにするための方法を多様な特性の人と一緒に考え実施し、合理的配慮の方法を学ぶ。	見えない人や手の不自由な人、車いすの人がどのようにしたらそばを打てるかを実際に楽しみながら体験し、合理的配慮の方法を学ぶ。	ここまでの気づきと英知を活かして、UDなまちづくりに必要な施策を考え、効果的な企画を合意形成しながら作り上げていく。	このまちにいる企業として個人として、新たな施策を進めるために自分が何をしていくか、課題を解決するための行動宣言をする。

